

□議員名：藤岡 修美

1 スポーツによるまちづくりの推進について

論点	2011 年に開催された山口国体の本市における「観る」「支える」というスポーツの観点からの検証について聞く。
回答	国体はサッカー、ゴルフ、軟式野球の 3 競技が本市で開催され、「観る」の観戦は約 1 万 4 千人、「支える」のボランティア等は約 4 千人で、延べ人数約 4 万人の市民の参加があり、本市のスポーツ振興や活性化、情報発信の強化につながる有意義な大会であった。

論点	2015 年に開催されたねんりんピックの本市における「観る」「支える」というスポーツの観点からの検証について聞く。
回答	本市では、サッカー交流大会を開催し、「観る」の観戦は 700 人、「支える」という観点からは延べ 149 人のボランティアや延べ 683 人の役員が支えるなど市民の参加があり、また高齢者がはつらつとプレーする姿が観る人に元気を与えるという非常に有意義な大会であった。

論点	2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東京 2020 参画プログラムへの取組について聞く。
回答	東京 2020 参画プログラムは、スポーツだけではなく文化など多種多様な分野においてオリンピック・パラリンピックの機運を盛り上げていくもので、大会の開催まで 3 年を切っており、本市もこうしたプログラムを活用しながら機運熟成を図っていく。

論点	山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画における「する」、「観る」、「支える」というスポーツの観点からの検証について聞く。
回答	スポーツによるまちづくり推進計画では、市民が週 1 回以上スポーツを行う割合を 30%から 50%以上にし、スポーツボランティア登録者数を 64 人から 150 人以上にすることを基本目標にしており、今後市民のアンケート調査を行う中で検証していく。

論点	県外の高校生が参加するサッカーフェスティバルを国体とまでとは言わないが、市民と一体となって更に盛り上げることは出来ないか。
回答	サッカーフェスティバルは毎年 55 チーム前後、約 2 千人の参加者数がある大きな大会なので、市民に観戦や応援をしてもらうために、今後は P R を一生懸命していく。

論点	市民がスポーツをする機会の増やすために、自治体間でスポーツを行った住民の数を競うチャレンジデーに参加してはいかがか。
回答	宇部市で取り組んでいるのは認識しており、一つの手法論としては素晴らしいと思うので、協議をしていく。

論点	地域スポーツ推進拠点の整備の取り組む方向性として、総合型地域スポーツクラブ設立の拡大、充実をあげているが、現状はどうか。
回答	現在は高泊地区と出合地区に二つの総合型地域スポーツクラブがあるが、他地域に新設するように努力している。また山口東京理科大学もスポーツの拠点施設になるので、このあたりも含め、総合型地域スポーツクラブの拡大に向けて進めていく。

論点	子供たちがスポーツ活動に親しむために、地域に根差したスポーツ少年団活動の充実が必要であると思ういかがか。
回答	子供のときにスポーツをすると大人になってもスポーツをする傾向にある。スポーツは体力面はもちろん、精神面、友情、仲間づくり等、青少年の育成に役に立つ。子供のスポーツ振興には力をいれていきたい。

論点	市の機構改革により、文化・スポーツ振興部が廃止され、地域振興部が設置されるが、「観る」スポーツに施策が特化されないか。
回答	地域振興部では文化・スポーツ振興部関係の部署を設置し、業務はそのまま引き続き行う。総合的に、地域振興部でシティセールスを

	含め情報発信もしていく。まちを活性化する要素としてスポーツは大切だと認識している。
--	---

論点	スポーツによるまちづくり推進計画で健康づくりの推進をあげているが、健康増進課が策定した健康づくり推進計画書と連動するのか。
回答	健康づくり推進計画書と連動していく。健康福祉部においては、健康体操等を進めている。文化・スポーツ振興部だけでスポーツ振興ができるものではなく、庁内外 13 部署の連携会議等で、横の連携を図りながらスポーツ振興を図っていく。

2 明治維新 150 年記念事業参画について

論点	平成 30 年に明治改元から 150 年を迎えるが、本市も明治 150 年記念事業へ参画してシティセールスの一助としたらどうか。
回答	市職員が PR のためにピンバッジをつけたり、観光協会等と提携した厚狭地区における歴史ウォークイベントの開催、歴史民俗資料館における維新に関する講演会の開催などの事業を通じて、明治 150 年の意識の熟成に向けて取り組んでいる。

3 歴史民俗資料館の企画展について

論点	歴史民俗資料館ではすぐれた企画展が開催されているが入場者が少ない。他のイベントと組み合わせ、まちづくりに活かさないか。
回答	企画展の周知については、ホームページやフェイスブックへの掲載、チラシの配布などを行っているが、他のイベントと組み合わせ入場者増を図るためには、テーマやキーワードを研究する必要がある。